

香美市立舟入小学校

# 道徳だより

## 研究発表会を行いました

去る、11月27日(水)には、舟入小学校で、道徳教育の研究発表会が行われました。学校を代表して2・4・6年生が道徳の研究授業を行ってくれました。市内外から50名程度の先生方が参加し、多くの気付きを持ち帰っていただくことができました。頑張ってくれた子供たちには感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。本年度の道徳の研究授業は、残すところ1年生のみとなりました。1年生の研究授業は、2月6日(木)です。

これまでの研究を通して、自分の思いを語り、友達の意見にしっかり耳を傾ける授業に、もっと力を入れていかななくてはならないと思います。きれいごとで終わらせない道徳の授業と、一人一人を認め、励ましていく日々の学級指導が道徳の研究には、とても大切であると痛感しています。残りわずかとなった今年度、より子供たちの心に響く授業・学級指導を展開できるように、研究を進めていきたいと思ひます。

以下、研究授業の紹介です。

### 2年生

2年生の研究授業の様子です。2年生は、「三びきは友だち」というお話から、友だち同士えこひいきをせずに過ごしていくためには、どんなことに気を付けたらいいかを考えました。写真は、お話の中の場面を再現している所です。授業の終わりには、「えこひいきをしなれば友達がたくさんできる」、「みんながいい気持ちになって今日もいい日だったと思える」などの子供たちの振り返りがありました。

### 4年生

4年生の研究授業は、不正をして将棋に勝った主人公のお話「新次のしょうぎ」から、正直に生きることは、どうして大切かについて考えました。大勢のお客さんの前でしたが、いつも以上に積極的に手が挙がり、一人一人がよく考えていました。子供たちは、「正直にすることいいことがあるとは限らないが、やっぱり正直に言うことは大切だ」「正直にしないと、信用されなくなってしまう」等、よく考えて発言ができていました。

### 6年生

6年生は、相手の立場や考えを尊重し、よりよい考えを生み出すためにというテーマで学習をしました。使用したお話「ダンをどうする」は、実際に愛媛県で起きた話で、団地で盲目の犬を飼うことに奔走した主人公たちと、団地の役員とのやりとりを描いたお話です。小さな命を守りたい主人公たちと、規則を守りたい役員の間で揺れる心の葛藤について、子供たちは考えました。振り返りからは、「みんなで納得できるまで話合うことが大切だ」「話し合うことで、今まで気付かなかった意見に気付かされるから、そこから新しい考えをだすことができる」などの意見が出されました。

## 冬休みの宿題について

長期休業恒例の「家庭で取り組む高知の道徳」の宿題についてお知らせします。

高知の道徳 P46・47「社会の役に立とう」の欄に、この年末年始、家庭や地域のためにできることについて、保護者の人と一緒に話し合っただけめたことを記入してください。決めたことを実践することにより、冬休みの生活をよりよいものにしていただきたいと思います。「高知の道徳」の冊子は、始業式の日に担任に忘れず提出をしてください。